

超音波検査～腎臓について～

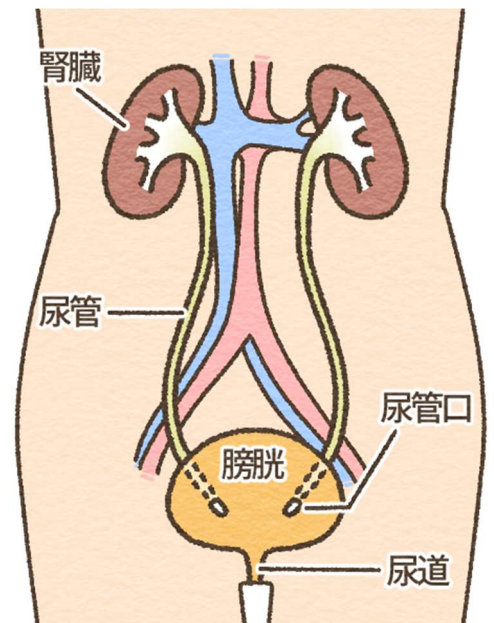
過去のニュースレターで、超音波検査における肝臓・胆嚢・膵臓について特集しました。
今回は、腎臓についてお話します。

腎臓ってどんな臓器？

腎臓は、そらまめのような形をした握りこぶしくらいの大きさの臓器で、腰のあたりに左右対称に2個あります。腎臓は血液をきれいにするために細い血管が集まった“ろ過装置”です。

血液を濾過して、老廃物や余分な塩分を尿として体の外へ排出してくれます。また、体に必要なものは再吸収し、体内に留める働きをしています。

また、老廃物を排泄するだけでなく、尿の濃縮機構を使って体内の水分量を調節したり、塩分やカリウムなどの電解質と呼ばれる物質の濃度を調整しています。

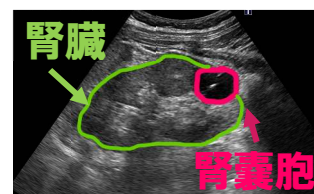


よくある超音波所見について

★腎嚢胞(じんのうほう)

腎嚢胞とは、腎臓にできる球状の袋のことで、中に液体を貯留しています。エコーでは頻度が高い所見で、加齢とともに数が増える傾向にあります。

多くは症状もなく健康に無害です。まれですが、極端に大きくなりすぎると腎組織が圧排されて、血尿の原因となる場合があります。

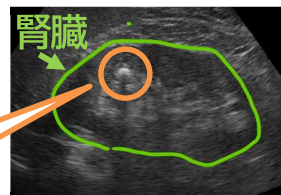


★腎結石(じんけっせき)

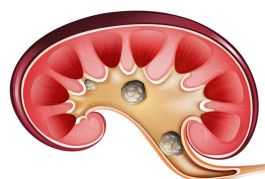
腎臓結石は腎臓の中に結石がある状態です。結石は、尿に含まれるカルシウムやマグネシウムなどの成分が過剰となり、結晶化すると考えられています。

結石が小さい場合は無症状ですが、結石が移動し、尿の通り道をふさいでしまうと、背中やわき腹の痛みや血尿などの自覚症状が出てきます。

腹部超音波検査で精密検査の指示が出た場合や、腎臓結石の指摘があって、腰痛や腹痛などの症状がある場合には、泌尿器科を受診してください。

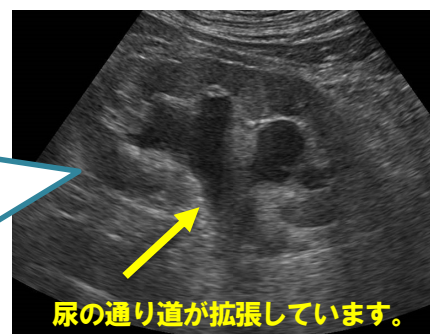


ここに1cmくらいの結石が見えます



●水腎症について●

腎臓で作られた結石が、何かの拍子で尿管内に落ちることがあります。それにより尿の流れがせき止められて、尿の通り道や腎臓の中に尿がたまって拡張した状態になります。これを「水腎症」と言います。



尿の通り道が拡張しています。

腎臓にできる腫瘍について

腎臓にできる腫瘍にはいくつか種類があります。

良性腫瘍の代表的なものは^{じんけっかんさんしぼうしゅ}腎血管筋脂肪腫です。その名の通り血管や脂肪といった成分でできています。大きくなると出血することがあるのですが、多くの場合は経過を見るだけで十分です。

悪性腫瘍の代表的なものは腎臓がんです。多くは無症状なため、検診などで腎臓の腫瘍を疑われた場合には精密検査をお受けください。

健康診断のご予約やご相談は、Tel.03-3668-6806 へご連絡ください。



ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。
今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局
Tel.03-3668-6803 / E-mail: mail@soiken.or.jp